



## 町の話



みて、こんなに捕まえたよ

### 捕まえられたかな？

#### 鬼怒川クリーン作業とマスのつかみどり大会

7月23日、桃畑緑地公園東側河川敷特設会場で鬼怒川クリーン作業とマスのつかみどり大会が開催されました。

大勢の参加者は、まず、鬼怒川河川敷のゴミを収集、大きな袋にたくさんのゴミが集められました。

マスのつかみどり大会では、子どもたちは素早く逃げるマスを、歓声をあげながら懸命に追いかけてきました。

### 超ラッキーな入場者はどなた？

#### いきいきプラザ入場者100万人を突破

7月26日、上三川いきいきプラザの入場者が100万人を突破し、100万人目の入場者となった阿久津君江さんに、記念品の贈呈が行われました。

星野町長から認定証と記念品を手渡された阿久津さんは「100万人目に当たるなんてビックリ。運が良かった。」と笑顔で話しました。



認定証を手に笑顔の阿久津さん(中央)



感謝の気持ちを忘れないで頑張っていこう

### 「感謝」をテーマに…

#### 上三川町子ども会連合会リーダー国内研修

7月31日～8月2日、恒例のリーダー国内研修が群馬県立妙義青少年自然の家で行われました。

今年は感謝の気持ちを持つことをテーマに活動しました。研修生30人、指導者16人(KLC含む)が参加しました。

おもちゃと人形自動車博物館の見学・ナイトハイキング・創作活動・火おこし・野外炊飯・キャンプファイヤー等を体験し夏休みの思い出作りをすることができました。

### 福祉・ボランティア精神を学ぼう!

#### 第21回中学生・高校生サマースクール開催

8月2日から8月23日まで、社会福祉協議会主催によるサマースクールが開催されました。町内在住・通学の中学生・高校生約30名が参加し、傾聴(相手を尊重し、耳と目と心を傾けて聴く)の講座受講や施設体験学習を行いました。

2日の開講式では、赤ちゃんふれあい体験を実施。その後、高齢者・障がい者関係施設や保育園、病院等で2日間の体験学習を行い、参加者たちは様々な方とふれあいながら、コミュニケーションの大切さを学んでいました。



赤ちゃんとのふれあい体験



## みんなで楽しんだ、上三川の夏 第16回 夕顔サマーフェスティバル開催

7月31日、上三川通りで「第16回夕顔サマーフェスティバル IN かみのかわ」が開催されました。

オープニングイベントでは、町の特産物でもあるかんぴょうのサッカーやかんぴょうむき体験などが行われました。

メインイベントの「よさこい流し踊り」では、様々な衣装の踊り手たちが、鳴子を鳴らしながら踊り、最後には、夏の夜空を彩る花火が打ち上げられ、お祭りを締めくくりました。



かんぴょうまっきーちゃんは子どもたちに大人気



元気に踊ったよさこい踊り



かんぴょうサッカーに挑戦



舞まいKid'sの華麗な踊り



祭を締めくくる納涼花火



みんなで楽しく折り紙に取り組みました

## 立体的な折り紙に挑戦 吉澤章生誕百年記念折り紙教室

8月7・8日、上三川いきいきプラザで、町出身の国際的な折り紙作家、故吉澤章さんの生誕百年記念事業として、折り紙教室が開かれました。

国際折り紙研究会代表で吉澤さんの妻喜代さんが講師を務め、町内外から多くの参加者が集まりました。

参加者は説明に真剣に耳をかたむけ、蝶や花、犬、クジラなどを作りました。



## 町の話



応援を受け笑顔いっぱいの子どもたち

### 地域 みんなで応援しよう!

#### 坂上学童野球クラブおじいちゃんおばあちゃんの会

この会は、坂上学童野球クラブの部員及びそのOBの選手を激励しようと作られました。

会の皆さんは、大会に応援に来るのはもちろん、練習試合などでも選手の成長を見ようと、機会あるごとに応援に足を運びます。

選手も、おじいちゃんやおばあちゃんの応援をととても楽しみに、そして励みにしています。

☎ 9117

企画課 情報広報係

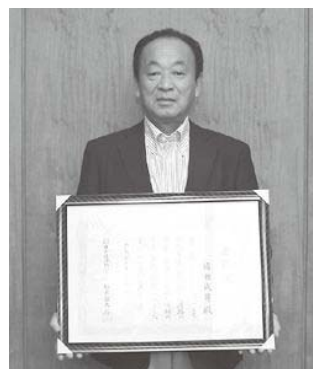
▼問い合わせ先

身近な話題をお寄せください  
皆さんの身の回り（地域や家庭）で起きた出来事を広報紙や上三川町ホームページに掲載してみませんか。ご連絡をお待ちしています。

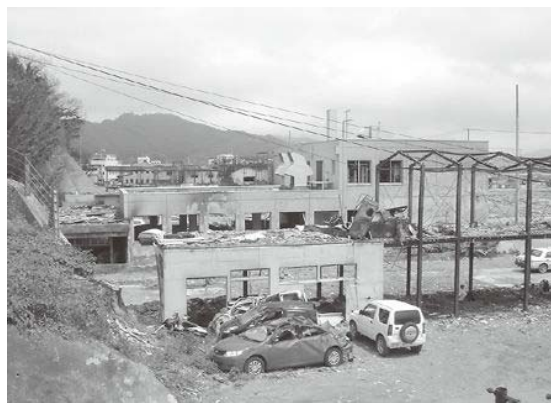
### 道路功労者として表彰

8月10日、前上三川町長の猪瀬成男さんが、「社団法人日本道路協会」より、道路功労者として表彰されました。

猪瀬さんは平成7年町長就任以来、多年にわたり最も基本的な社会資本である道路整備の促進に尽力され、その功績が特に顕著であると認められたものです。



猪瀬 成男さん



痛々しい大津波の爪痕

### 東日本大震災 被災地（岩手県大槌町）への 職員派遣リポート

東日本大震災で被災した岩手県からの職員派遣要請を受け、栃木県、さくら市、益子町との合同チームに参加し、7月5日～29日の期間、岩手県大槌町へ3名の職員が派遣されました。

大槌町での主な作業は、「弔慰金受領申出書」という書類の申出人と死亡された方との関係を住民基本台帳ネットワークで確認する作業や、「被災者生活再建支援金」に関するデータ入力などでした。

大槌町は震災前の人口は約1万5,000人の小さな町ですが、地震により発生した大津波と火災により約700人が犠牲になるなど、壊滅的な被害を受けた町です。震災前に市街地があった場所は、ほとんどの建物が流され、焼け野原のようでした。

派遣された職員は「今後同じような地震が起こらないとも限らない。その際に地域住民や自らの命・安全を守っていく手段について、職員はもちろんのこと、住民一人ひとりがよく考えていかなければならないと感じた。」と話しました。



津波と火災にあった大槌小学校